

当クリニックにおける過去3年間の 小児口腔外傷に関する実態調査

○宮内英里、石谷徳人、前野孝枝、
前田愛里、花崎美華、徳永まどか

医)イシタニ小児・矯正歯科クリニック

【目的】

当クリニックでは、歯をぶつけた等を主訴とした小児患者が来院し、緊急処置を必要とすることも多い。これらは、受傷状況も多岐にわたっており、特に歯の外傷では、受傷後しばらくしてから症状が出ることもある。そのため、継続的な口腔管理の担い手である歯科衛生士にとっても、これらの実態を把握し、注意喚起に努める必要があると考えている。そこで今回、過去3年間の口腔外傷に関する実態調査を行ったので報告する。

【対象と方法】

対象は過去3年間に外傷を主訴として当クリニックに来院した小児患者110名(同一患者を含むのべ137症例)である。これらの対象者における外傷時の状況や、環境等の項目について調査を行った。

【結果】

- ・受傷時年齢は、4歳が最も多く24名(17.5%)、次いで5歳23名(16.8%)、1歳18名(13.0%)であった。
- ・性別は、男子が多く68名(61.8%)、女子が42名(38.2%)であった。
- ・居住地は、始良市が最も多く100名(91.0%)、次いで隣接する霧島市3名(2.7%)、鹿児島市2名(1.8%)であった。
- ・受傷回数は、1回が最も多く89名(81.0%)、2回以上受傷した者が21名(19.0%)であった。
- ・受傷原因は、転倒・転落が最も多く(75名54.8%)、次いで物と衝突(38名27.7%)、人

と衝突(22名16.1%)の順であった。

- ・来院までの時間は、当日の0.5時間以上～1時間未満が最も多く52名(38.0%)、次いで翌日43名(31.4%)、1時間以上～2時間未満13名(9.5%)の順であった。
- ・受傷歯数は、1本が69名(53.1%)と最も多く、次いで2本が56名(43.1%)、3本が3名(2.3%)の順であった。
- ・受傷部位で最も多かったのは、上顎乳中切歯101本(51.0%)、次いで上顎中切歯48本(24.2%)、下顎乳中切歯16本(8.1%)の順であった。
- ・受傷様式①としては、歯冠破折16本(11.6%)が最も多く、次いで歯根破折5本(3.6%)であり、歯冠・歯根破折はいなかった。
- ・受傷様式②では、亜脱臼が最も多く107本(77.5%)、次いで振盪25本(18.1%)、完全脱臼・脱落3本(2.2%)の順であった。
- ・受傷場所は、自宅が50名(36.5%)と最も多く、次いで学校38名(27.8%)、公園25名(18.2%)の順であった。年齢別の受傷場所では0～5歳は自宅が41名(45.6%)と最も多いのに対し、6～12歳と13～15歳で最も多いのは学校でそれぞれ21名(47.7%)、2名(66.7%)であった。
- ・受傷時の天気は、晴れの日が最も多く83名(60.6%)、次に曇り46名(33.6%)、雨8名(5.8%)の順であった。

【考察】

小児期の口腔外傷は低年齢の男児に多く、複数回の受傷もみられる等、受傷時の傾向を詳細に把握することにより、保護者に対し受傷時の応急処置法だけでなく、外傷の具体的な予防法についても理解してもらう必要があると再認識した。

今後は、継続的な口腔管理の中において、疾病予防だけでなく、口腔外傷による注意喚起を促すことを通して、事故予防に貢献できるよう、歯科衛生士として努力していきたい。